

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年7月27日（月）～令和2年8月2日（日）〔令和2年第31週〕の感染症発生状況

第31週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.05人と前週（1.62人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.97人と前週（1.41人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。
突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.73人と前週（0.78人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～接触感染に御注意を！～

新型コロナウイルス感染症の感染経路には、飛沫感染だけではなく接触感染もあります。一般的に、接触感染はウイルスに汚染された手で顔を触ることで、目、鼻、口などの粘膜から感染するといわれています。

川崎市においては、令和2年第31週（7月27日～8月2日）の報告数が107件と前週の66件から大幅に増加しており、本疾患が指定感染症に定められた令和2年2月1日以降最多となりました。

人は無意識に顔を触っています。感染を拡げないために、身体的距離の確保やマスクの着用だけでなく、手洗いなどの予防対策を徹底しましょう。

接触感染に注意！

人は「無意識」に顔を触っています！
1時間に平均23回



そのうち、目、鼻、口などの粘膜は、
約44%を占めています！

（参考）Yon-Loo Kwek, Jan Gubler, Mary Lou McLean, Lisa Teuchling, A Researcher's Guide to the World's Most Common COVID-19 Risk Factors, 2020年4月20日

手洗いのすすめ

水とハンドソープで、ウイルスは減らせます！



手洗いの5つのタイミング



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター
（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先） 044-276-8250
令和2年8月4日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年8月3日（月）～令和2年8月9日（日）〔令和2年第32週〕の感染症発生状況

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.79人と前週（2.05人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.73人と前週（0.97人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。
突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.58人と前週（0.73人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



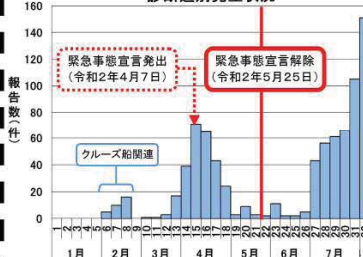
新型コロナウイルス感染症～高齢者を感染から守りましょう！～

新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和2年4月7日に緊急事態宣言が発出された後、一旦減少しましたが、令和2年5月25日の解除後は再び増加がみられます。

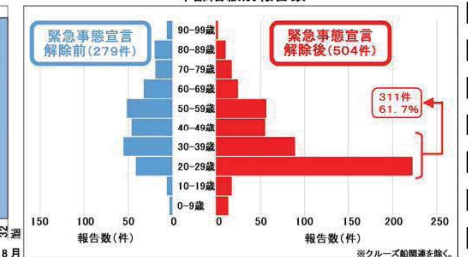
川崎市においても、緊急事態宣言解除前は279件でしたが、解除後は504件と増加しており、特に20～30歳代が311件と全体の61.7%を占めていました。60歳以上は52件と解除前の77件より少ないですが、徐々に増えているため、今後さらに増加する可能性もあります。

重症化を防ぐためには、高齢者や基礎疾患のある方への感染を防ぐことが重要です。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の
診断週別発生状況



川崎市における新型コロナウイルス感染症の
年齢階級別報告数



川崎市
KAWASAKI CITY

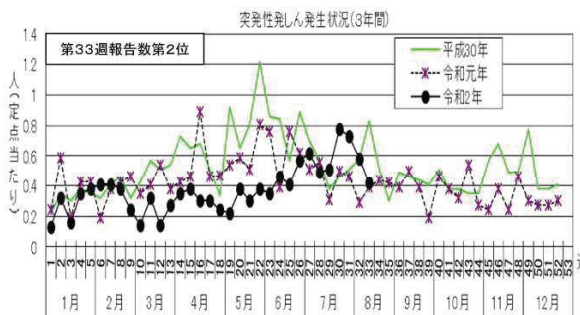
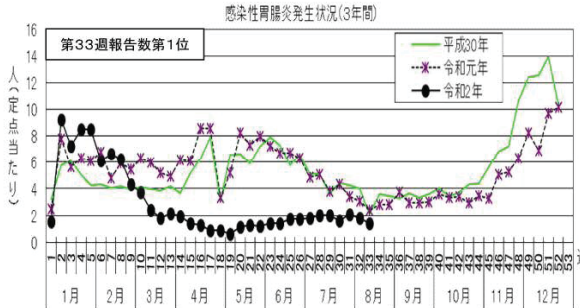
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター
（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先） 044-276-8250
令和2年8月12日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年8月10日（月）～令和2年8月16日（日）〔令和2年第33週〕の感染症発生状況

第33週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発疹 3) 水痘でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.42人と前週（1.79人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発疹の定点当たり患者報告数は0.42人と前週（0.58人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 水痘の定点当たり患者報告数は0.29人と前週（0.18人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



～食中毒警報が発令されました！！～

8月に入り気温が急上昇し、食中毒発生の可能性が高まったことから、神奈川県は令和2年8月18日（火）に食中毒警報を発令しました。今年は昨年より19日遅い発令です。
 川崎市では、今夏は食中毒事例の発生はありませんが、食中毒の原因の一つである腸管出血性大腸菌による感染症は、例年7月～8月にピークとなります。

食中毒を防ぐために、手洗いを徹底し、購入した弁当やそうざい、家庭で作った料理などは適切に保管し、早めに食べましょう。



食中毒予防の3原則

つけない

- こまめに手を洗う
- 包丁やまな板などの器具は食材によって使い分ける
- 買い物の際は、肉・魚はそれぞれ分けて包む



増やさない

- 帰ったらすぐ冷蔵庫へ
- 冷蔵庫は10℃以下に維持
- 冷凍庫は-15℃以下に維持



やっつける

- 加熱は十分に（中心温度75℃で1分以上）
- 包丁などの器具、ふきんは洗って消毒
- 温めなおすときも十分に加熱



今年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、テイクアウトを利用する方も多いと思います。弁当やそうざいなどは適切に保管し、早めに食べましょう。



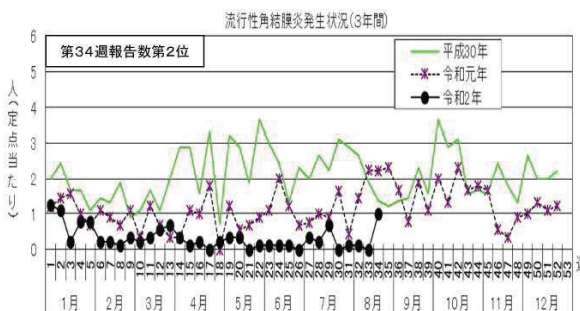
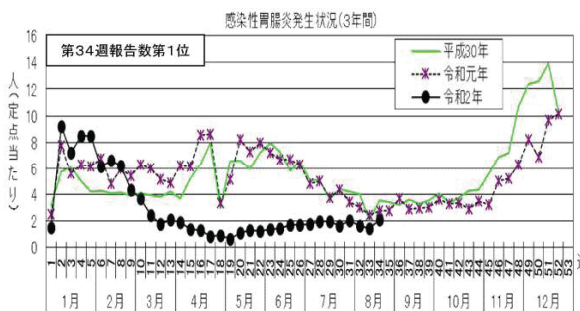
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先） 044-276-8250
 令和2年8月18日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年8月17日（月）～令和2年8月23日（日）〔令和2年第34週〕の感染症発生状況

第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.08人と前週（1.42人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.00人と前週（0.00人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.57人と前週（0.25人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～職場での感染を防ぎましょう～

川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は、7月末から再び増加しており、令和2年第34週（8月17日～8月23日）は137件と、前週から8件増加しました。家族内など少数のクラスターが多いですが、職場関連での感染が疑われる事例が少しずつ増加しています。

職場における感染対策のポイントとしては、こまめに換気をする、席や更衣室などでは適切な距離をとる、備品の共用はできる限り避けるなどがありますが、体調が悪い場合に、軽めの症状でも休む・休ませることが最も重要です。適宜、マスクの着用や手洗いなども行いましょう。

職場における「4つ」の対策ポイント

換気



室内ではこまめに換気をしましょう

密



席や更衣室で、人と適切な距離をとりましょう

共用



複数人での備品の共用はできる限り避けましょう

休



体調が悪い場合は、軽めの症状でも休みましょう・休ませましょう

感染防止の3つの基本である
 ①身体的距離の確保
 ②マスクの着用
 ③手洗いの徹底をお願いします。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先） 044-276-8250
 令和2年8月25日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年8月24日（月）～令和2年8月30日（日）〔令和2年第35週〕の感染症発生状況

第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.43人と前週（2.08人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.81人と前週（0.57人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.68人と前週（0.54人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

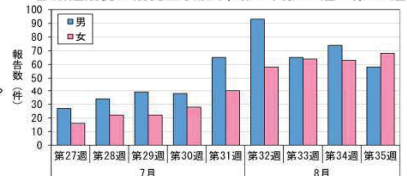


新型コロナウイルス感染症の市内発生状況－令和2年7月～8月－

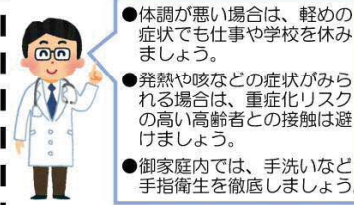
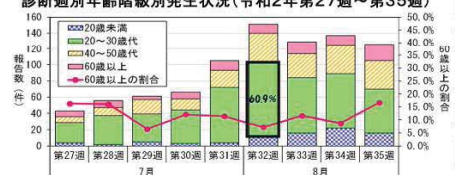
川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は7月以降増加し、令和2年第32週（8月3日～8月9日）に151件と最多になりました。その後は、徐々に減少がみられるものの、第35週（8月24日～8月30日）は126件と依然として100件以上の報告があります。

流行のピークであった第32週は男性の割合が61.6%と高く、同時期の20～30歳代の割合も60.9%と半数以上を占めました。第33週以降は明らかな男女差はみられませんが、第35週は60歳以上が16.7%と徐々に増加しています。重症化リスクの高い高齢者に感染させないために、御家庭でも十分注意しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別男女別発生状況（令和2年第27週～第35週）



川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別年齢階級別発生状況（令和2年第27週～第35週）



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所） 令和2年9月1日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年8月31日（月）～令和2年9月6日（日）〔令和2年第36週〕の感染症発生状況

第36週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.08人と前週（1.43人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.70人と前週（0.68人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.65人と前週（0.81人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

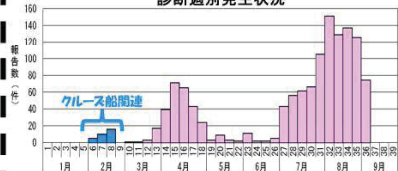


新型コロナウイルス感染症の市内発生状況－小児の感染源－

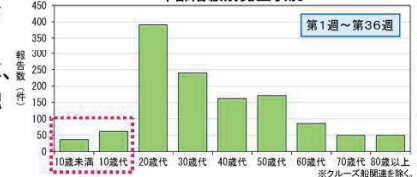
川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和2年第36週（8月31日～9月6日）までに、クルーズ船関連を除き1249件となりました。

年齢階級別では、20歳未満の報告は99件（7.9%）とわずかであり、このうち15歳未満は49件（3.9%）でした。市内の保育園、幼稚園、小・中学校に通う園児や児童は42件でしたが、そのほとんどが周囲の家族や施設職員など大人からの感染であったことが、調査の結果からわかっています。発症された方が速やかに自宅に待機し、適切に受診をされたことで、幸い施設内での大きな感染拡大にはつながりませんでした。発熱や咳などの症状がみられる場合は、可能な限り早い時期から他の人との接触を避けるようにしましょう。

令和2年川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況



令和2年川崎市における新型コロナウイルス感染症の年齢階級別発生状況



15-19歳では、50件のうち23件が19歳であり、成人と同様に職場での感染がみられました。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所） 令和2年9月8日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年9月7日（月）～令和2年9月13日（日）〔令和2年第37週〕の感染症発生状況

第37週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.68人と前週（2.08人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.70人と前週（0.65人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.65人と前週（0.70人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症から高齢者を守りましょう！

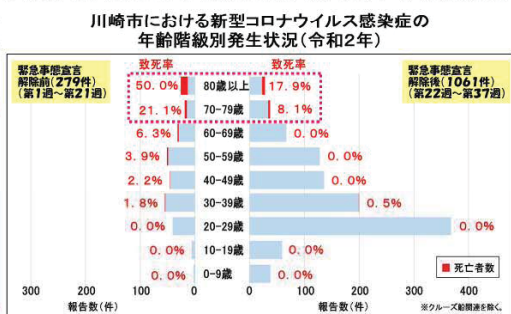
川崎市における令和2年第37週（9月7日～9月13日）の新型コロナウイルス感染症の報告数は89件と、依然として多い状況が続いています。

緊急事態宣言解除前の報告数は279件で、解除後と比較して少なかったものの、致死率は8.2%でした。特に70歳代は21.1%、80歳以上は50.0%にも上りました。緊急事態宣言解除後の報告数は1061件と大幅に増加しましたが、致死率は0.8%にとどまっています。しかし70歳代は8.1%、80歳以上は17.9%と高齢者で高い傾向は変わりません。

敬老の日が近づき、帰省をする方もいらっしゃると思いますが、体調が悪い場合は中止若しくは延期するなど、高齢者を守るための配慮をしましょう。

親族が大勢集まるの会食やカラオケなどでの3密にも注意しましょう。

注意！



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250
令和2年9月15日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年9月14日（月）～令和2年9月20日（日）〔令和2年第38週〕の感染症発生状況

第38週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.89人と前週（1.68人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.92人と前週（0.70人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.54人と前週（0.65人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

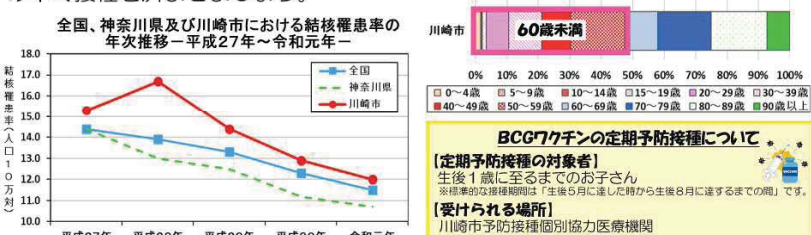


結核予防週間～結核健診を受けましょう！～

令和2年9月24日から9月30日までは結核予防週間です。

結核の患者数及び罹患率は年々減少しているものの、我が国では未だに毎年約15,000人が患者として登録され、約2,000人が命を落としています。

川崎市では、令和元年の結核罹患率は12.0（人口10万対）と前年（12.9）と比べて減少しているものの、全国（11.5）よりもやや高く、特に60歳未満の比較若い世代が高い状況でした。早期発見・早期治療のためにも結核健診を受けることが重要です。また、BCGワクチンは乳幼児における結核性髄膜炎など重症結核の予防に有効です。接種対象者のお子さんはできるだけ早く接種を済ませましょう。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250
令和2年9月24日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年9月21日（月）～令和2年9月27日（日）〔令和2年第39週〕の感染症発生状況

第39週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.19人と前週（1.89人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.57人と前週（0.92人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.49人と前週（0.54人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



小児へのロタウイルスワクチン定期接種が開始されます！

令和2年10月1日から小児へのロタウイルスワクチンの定期接種が開始されます。ロタウイルスは感染性胃腸炎の原因となる病原体の1つで、水様性の下痢や嘔吐を主症状とする感染症を引き起こします。ほとんど全ての子どもが乳幼児期にロタウイルスに感染しますが、年齢が低いほど重症化するといわれています。ワクチン接種は早めに開始し、早めに完了しましょう。

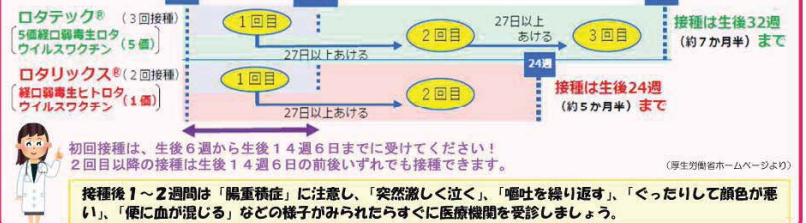
ロタウイルスワクチンについて

【対象者】

令和2年8月1日以降に生まれたお子さん
(ただし、令和2年9月30日までの予防接種は任意接種となり、費用がかかります。)

【ワクチンの種類と接種回数】

2つのワクチンは接種回数が異なります。最初に受けたワクチンと同じ種類を接種してください。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター
(問合せ先) 044-276-8250 令和2年9月29日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年9月28日（月）～令和2年10月4日（日）〔令和2年第40週〕の感染症発生状況

第40週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.44人と前週（1.19人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.08人と前週（0.57人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.50人と前週（0.49人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



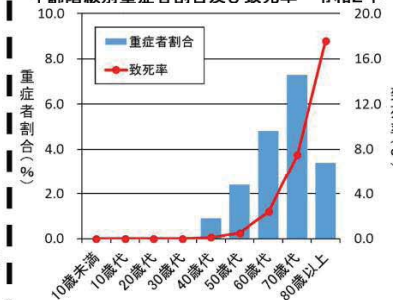
令和2年度のインフルエンザワクチン接種時期について

令和2年10月1日から高齢者を対象とするインフルエンザワクチンの定期接種が開始されました。現在、新型コロナウイルス感染症が流行しており、高齢者が罹患した場合は重症化の割合や致死率が高くなりますが、インフルエンザに罹患した場合も同様に高齢者はハイリスクです。

今年は、高齢者が確実に接種できるようにインフルエンザワクチンの接種時期が設けられていますので、必要な方は早めの接種を御検討ください。

より必要とされる方にワクチンが届くように、御協力をお願いいたします。

国内における新型コロナウイルス感染症の年齢階級別重症者割合及び致死率—令和2年—



今年度のインフルエンザワクチン接種時期
— 以下の対象者は早めに接種をお願いします。 —

令和2年 10月1日～	65歳以上の方（定期接種対象者） ※60歳から65歳未満の方で、心臓、腎臓、呼吸器の機能障害（障害1級程度）やヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害（障害1級程度）のある方も対象となります。 ※令和2年度に限り、全額無料となります。
令和2年 10月26日～	・医療従事者 ・基礎疾患を有する方 ・妊婦 ・生後6か月～小学校2年生 ※上記以外の方も接種できます。

・接種に当たっては、あらかじめ医療機関に電話で予約をお願いします。
・接種後に体調に異変が生じた場合は医療機関に相談しましょう。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター
(問合せ先) 044-276-8250 令和2年10月6日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年10月5日（月）～令和2年10月11日（日）〔令和2年第41週〕の感染症発生状況

第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.32人と前週（1.41人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.73人と前週（1.05人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.38人と前週（0.49人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



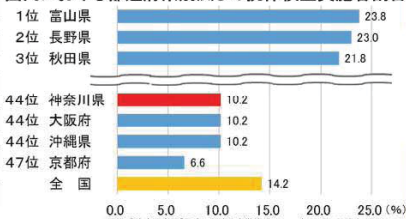
風しん（第5期）予防接種～無料抗体検査はお早めに！～

風しんは、発熱や発疹、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性感染症です。妊婦が妊娠20週頃までに感染した場合、胎児に白内障や先天性心疾患、難聴などの症状を呈する先天性風しん症候群を引き起こすことがあります。

現在、成人男性を対象に全国で風しんの無料抗体検査を実施し、抗体価の低い方にワクチン接種を行っています。神奈川県は抗体検査実施者割合は全国で2番目に低い状況です。

対象の方に送付している抗体検査のクーポン券は、有効期限が令和3年3月31日までとなりますので、早めに抗体検査を受け、抗体価が低い方はワクチンを接種しましょう。

国内における都道府県別風しん抗体検査実施者割合



【対象者】

昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた男性の方

※対象の方にはクーポン券を送付済みです。
※妊娠を希望する女性、妊娠を希望する女性のパートナー、妊婦のパートナー及び昭和34年4月2日から平成元年4月1日の間に生まれた男性は、川崎市独自の風しん対策事業に基づき無料で抗体検査を受けることができます。詳しくは川崎市ホームページをご覧ください。

【クーポン券の有効期限】令和3年3月31日

【費用】無料

抗体のない方は、麻しん風しん混合（MR）ワクチン*を令和4年3月31日までは無料で受けることができます。
*麻しんと風しんの両方を予防することができます。

問合せ先

川崎市予防接種コールセンター

電話：044-200-0142

受付時間：8時30分～17時15分

月曜日から金曜日まで（祝日、年末年始除く）

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250
令和2年10月13日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年10月12日（月）～令和2年10月18日（日）〔令和2年第42週〕の感染症発生状況

第42週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.24人と前週（1.32人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.14人と前週（0.73人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.35人と前週（0.38人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



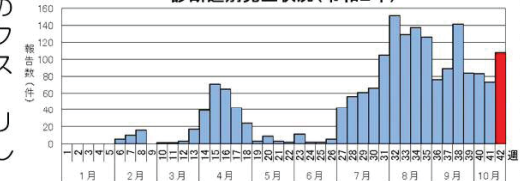
新型コロナウイルス感染症の感染リスク

川崎市における新型コロナウイルス感染症は、令和2年8月のピーク時には毎週100件を超える報告がありましたが、9月以降は概ね80件前後で推移していました。一旦減少傾向にあったものの、第42週（10月12日～10月18日）は108件と再び増加がみられます。友人や同僚との会食が発端となるケースも多く、

飲酒を伴う食事や大人数での会話、休憩時間などのマスクを外した会話なども感染リスクとしてあげられています。

感染対策を徹底し、感染リスクを高める行動は避けましょう。

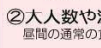
川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況（令和2年）



感染リスクが高くなりやすい場面

① 飲酒を伴う懇親会

飲酒に伴う大声、狭い空間に長時間、大人数で滞在



② 大人数や深夜におよぶ飲食

屋外の通常の食事と比べ、感染リスクが高まる



③ 大人数やマスクなしでの会話

仕事後や休憩時間におけるマスクなしの会話



④ 仕事後や休憩時間

仕事後や休憩時間の密な状況



⑤ 集団生活

大人数が閉鎖空間で長時間一緒にいる際など



⑥ 激しい呼吸を伴う運動

換気の悪い閉鎖空間での激しい運動



⑦ 屋外での活動の前後

活動前後の車での移動や食事



（第10回新型コロナウイルス感染症対策分科会資料より）

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250
令和2年10月20日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年10月19日(月)～令和2年10月25日(日)〔令和2年第43週〕の感染症発生状況

第43週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.68人と前週(1.24人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.19人と前週(1.14人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.46人と前週(0.35人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



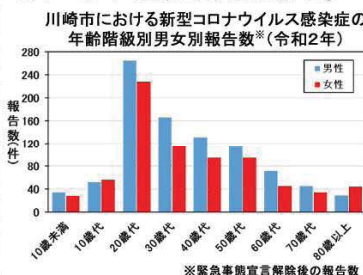
イベントの新しい楽しみ方～新型コロナウイルス感染症～

川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和2年第36週以降、増減はあるものの、著明な減少はみられていません。令和2年5月25日の緊急事態宣言解除後は、特に20歳代の報告が多く、男性が265件、女性が228件といずれも全体の約3割を占めていました。

秋から冬にかけては、若い人が数多く参加するハロウィンやクリスマスなどのイベントがあります。人が密に集まると集団感染の発生にもつながるため、新しいイベントの楽しみ方として、現在はオンラインでの開催なども始まっています。基本的な感染対策を心がけつつ、新しい方法でイベントを楽しみましょう。

感染防止策を徹底して、イベントを楽しみましょう！

- 適切な感染防止策を徹底しましょう。
 - 手指消毒
 - 大声での会話の自粛
 - 距離の確保
 - マスクの着用
- 密が発生しやすい場所や適切な感染防止策が講じられていないイベントへの参加は避けましょう。
 - ※街頭や飲食店での大量又は深夜にわたる飲酒、飲酒後のイベント参加は自粛しましょう。
- オンライン開催のイベントに参加して楽しみましょう。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 問合せ先) 044-276-8250 令和2年10月27日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年10月26日(月)～令和2年11月1日(日)〔令和2年第44週〕の感染症発生状況

第44週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.35人と前週(1.68人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.22人と前週(1.19人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.43人と前週(0.46人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



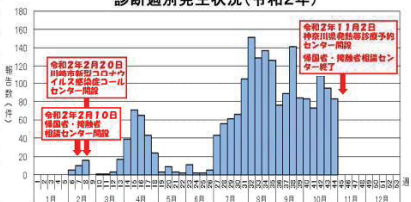
神奈川県発熱等診療予約センターが開設されました！

新型コロナウイルス感染症の報告数は、全国では10月以降微増傾向が続いており、川崎市においてはほぼ横ばいで推移しています。今後インフルエンザの流行が始まり、発熱など風邪症状のある方が増加すると、新型コロナウイルス感染症との鑑別が困難となり、受診時の混乱が懸念されます。

神奈川県では、インフルエンザの流行期に備え、発熱などの症状がある方がかかりつけ医での受診ができない場合などに、診療可能な医療機関の予約を行う「発熱等診療予約センター」を令和2年11月2日に開設しました。

川崎市では同センターの開設に伴い、帰国者・接触者相談センターを終了し、相談窓口を川崎市新型コロナウイルス感染症コールセンターに統一しました。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況(令和2年)



川崎市における新型コロナウイルス感染症の相談体制(令和2年11月2日から)

- 何らかの症状があり、かかりつけ医がある方
かかりつけ医に相談・受診しましょう。
- 何らかの症状があり、かかりつけ医がない方
●発熱・咳・咽頭痛のいずれかの症状がある方
神奈川県発熱等診療予約センター
電話番号 0570-048914
(業からない場合は045-285-1015)
受付時間 9時～21時(土日・祝日含む)
●それ以外の方
川崎市新型コロナウイルス感染症コールセンター
電話番号 044-200-0730
受付時間 24時間(土日・祝日含む)
- その他一般的な相談のある方
川崎市新型コロナウイルス感染症コールセンターに御相談ください。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 問合せ先) 044-276-8250 令和2年11月4日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年11月2日（月）～令和2年11月8日（日）〔令和2年第45週〕の感染症発生状況

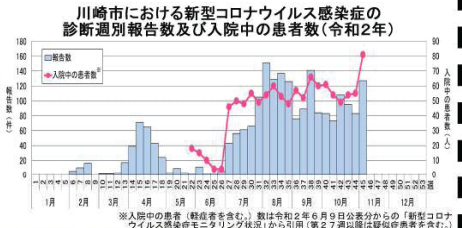
第45週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.62人と前週（1.35人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.59人と前週（1.22人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.59人と前週（0.43人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～ハイリスク者への感染を防ぎましょう～

新型コロナウイルス感染症の報告数は、現在全国の都市部を中心に増加しています。川崎市においても、令和2年第45週（11月2日～11月8日）は127件と前週（83件）から増加し、市内医療機関に入院中の患者数も81人と急増しました。

患者数が増加すると、それに伴い重症者数の増加も懸念されます。重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある方への感染を防ぐために、手洗いやマスクの着用などの基本的な感染対策を今一度徹底しましょう。



新型コロナウイルス感染症の重症化について



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（問合せ先）044-276-8250 令和2年11月10日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年11月9日（月）～令和2年11月15日（日）〔令和2年第46週〕の感染症発生状況

第46週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.49人と前週（1.62人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.51人と前週（0.59人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.41人と前週（0.59人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

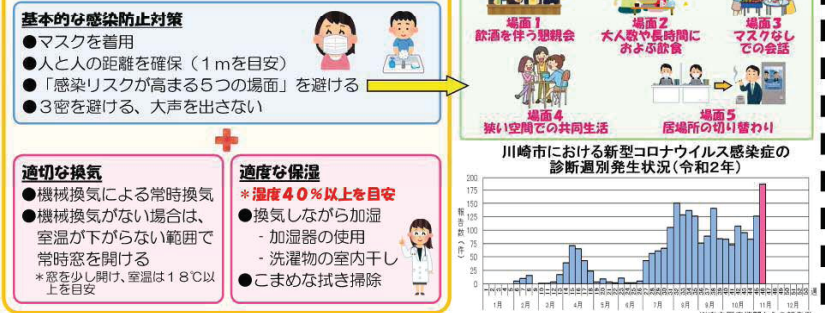


寒い時期の感染対策！～新型コロナウイルス感染症～

川崎市における令和2年第46週（11月9日～11月15日）の新型コロナウイルス感染症の報告数は188件と、これまで最多であった第32週（8月3日～8月9日）の151件を上回り、前週から急増しました。

11月に入り、今後は冬に向けて気温も下がります。これまでの基本的な感染防止対策だけでなく、寒い環境下での適切な換気や適度な保湿などの対策も併せて実施することが重要です。

寒い時期における感染防止対策等のポイント～新型コロナウイルス感染症～



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（問合せ先）044-276-8250 令和2年11月17日作成